

# 足立租税教育推進協議会 会長賞

## 「税金は『未来へのバトン』」

足立区立第一中学校

三年 山岸 奈々子

「これ、どういう意味だろう。」そう思った時、学校で一人一台タブレット端末が貸し出されているため、私達はすぐに調べることができる。例えば授業中に先生が話したことや、わからない漢字など少しでも疑問に思ったことを、その場で詳しく調べることができるのだ。まだタブレット端末が貸し出されていなかった小学校低学年の頃と比べると、今では随分学びやすい環境になったと思う。この他にも授業で調べ学習をする時、タブレット端末からたくさんの資料を見たり、友達との意見交換がしやすくなったと感じる。また、休み時間や放課後に学習アプリを開いて予習や復習をすることもできる。このように私は今の充実した学習環境を当たり前のように過ごしているが、実はその背景に「税金」が大きく関わっていることを最近知った。

ある時、租税教室という税金について教わる機会があった。そこで令和三年度の財務省のホームページのデータを閲覧し、私は大きな衝撃を受けた。そこには子ども一人に対し年間で、小学生には約九十二万千円、中学生には約百六万七千円もの税金が使われていると書かれていた。これまで税金が私達の生活や社会のために使われていることはなんとなく知っていたが、まさかこんなにも多くのお金が私達一人ひとりのために使われているとは思わなかった。心で底から驚いた。先生方が授業をしてくださるこ

と、授業ができる教室環境があること、これら全てが、私達が納めている消費税や、大人達が納めている所得税や住民税など、様々な税金によって支えられているのだと改めて実感した。そして私達が日頃から使っているタブレット端末の貸与費用も、税金によつてまかなわれていると知り、そのありがたみをより一層感じるようになった。

これらの出来事を通じて、納税は単なる国民の義務ではなく、社会を支え、未来を育むための重要なことであると理解することができた。私達が質の高い教育を受けられるのは、今までに多くの人が納税をして社会に貢献してくれたおかげだ。この恩恵を受けて、将来私も社会の一員として、こうした循環を繋いでいきたいと思う。未来の子ども達が、今の私達のような充実した教育を受けられるよう、責任を持って納税していきたい。それは社会への恩返しであり、また次の世代へと受け継がれていく「未来へのバトン」のようなものだと考えたからだ。税金を通じて社会が豊かになり、教育が充実し、安心してみんなが暮らせる社会が維持されることで、子ども達が様々な夢を持つことができる。そんな社会に貢献できるような大人になりたいと、私は思う。